

## 自動血球分析装置の更新に伴う比較検討

◎梅田 彩<sup>1)</sup>、佐原 香穂里<sup>1)</sup>、佐藤 文明<sup>1)</sup>、水嶋 文乃<sup>1)</sup>、木田 明<sup>1)</sup>、余語 保則<sup>2)</sup>  
株式会社 グッドライフデザイン<sup>1)</sup>、トヨタ記念病院<sup>2)</sup>

【はじめに】当施設は、愛知県豊田市にあるトヨタ記念病院に併設する登録衛生検査所である。トヨタ記念病院の診療検体及び主にトヨタ系列の企業健診検体を受託している。血液検査はベックマンコールター社の自動血球分析装置 UniCel DxH800 計 4 台、血液塗抹標本作成装置 SMS 計 2 台を使用し 1 日に 700~1000 検体、繁忙期には 1 日 1500 検体程測定を行っている。使用開始より 2023 年で稼働 10 年目を迎え、自動血球分析装置更新のため比較検討を行った。

【背景】病院検体の多くは午前中に集中しているが、その間に企業からの至急対応の検体を 100~200 検体程測定する必要がある。DxH800 は 2 ライン稼働のため 1 ラインを病院検体専用、1 ラインを企業健診検体専用とすることで検体が立て込む時間帯でも遅延を起こすことなく対応できていた。2023 年に当施設の建替えによる移転が予定されており、スペースの問題上 2 ライン構成は不向きであったため TAT を考慮した 1 ラインでの機器を選定する必要があった。

【対象】現行機の UniCel DxH800 を基準とし、新機種であるベックマンコールター社 UniCel DxH900 とシスメックス

社の XR-9000 の検討を実施。

【検討項目】発売日、測定原理、検体処理能力、試薬数、コントロール種類、立ち上げ時間、メンテナンス工数等の各項目につき比較検討した。

【結果】基本的な性能は両メーカーとも大きな差は生じなかった。検体処理能力的に UniCel DxH900 は 100 検体/時間 (CBC/Diff) 45 検体/時間 (CBC/Diff/Ret)、XR-9000 は 110 検体/時間 (CBC/Diff) 83 検体/時間 (CBC/Diff/Ret) となり、当施設の特徴と病院検体の TAT を考慮した結果シスメックス社の XR-9000 を選定した。

【まとめ】今回の機器更新では、移転後の当施設の特徴も考慮した上で選定を行った。TAT 短縮、新規検査項目の導入、サンプル量の微量化や他院からの紹介患者の検査結果の施設間差の縮小など、より臨床貢献に寄与できたと考える。またメンテナンス工数や立ち上げの工数の削減も可能となった。今後も業務改善を意識した機器選定に努めていくことが重要であると考えます。

株式会社 グッドライフデザイン 0565-25-3010